

三菱自動車、欧州市場向けの新型コンパクトハッチバック『コルト』を発表

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）の欧州事業統括会社であるミツビシ・モーターズ・ヨーロッパ・ビー・ブイは、欧州市場向けの新型コンパクトハッチバック『コルト』を発表しました。

新型『コルト』オンライン発表会（英語のみ）

URL：<https://youtu.be/uli4jGVPjXU>



新型『コルト』

本年3月から欧州で販売し好評を博している『ASX』に続いて、アライアンスパートナーであるルノーよりOEM供給を受ける新型『コルト』は、アライアンスによるCMF-Bプラットフォームを採用、5ドアコンパクトハッチバックとして欧州市場に9年ぶりに再投入します。同車はトルコのルノー社ブルサ工場で生産し、本年10月より三菱自動車の販売ネットワークを通じて、欧州で販売を開始する予定です。

1. デザイン

新型『コルト』は、欧州の街並みに映える力強くスポーティな外観としました。フロントには、三菱自動車のフロントデザインコンセプトである「ダイナミックシールド」の要素を取り入れた、両サイドに広がる勢いを表現したグリルを採用し、上部にスリムなフルLEDヘッドライト、下部にL字型のLEDデイトタイムランニングランプを組み合わせることで、シャープな表情に仕上げています。リヤではワイド感を強調するバンパーにより、スポーティで安定感のあるデザインを実現しました。

2. パワートレイン

新型『コルト』では、環境に配慮したハイブリッド（HEV）モデルとガソリンエンジンモデルを設定しました。HEVモデルでは1.6Lガソリンエンジンに駆動用と発電用の2つのモーター、マルチモードの自動変速機と1.2kWhの駆動用バッテリーを組み合わせました。ガソリンエンジンモデルでは1.0Lガソリンターボエンジンと6速マニュアルトランスミッション、1.0Lガソリンエンジンと5速マニュアルトランスミッションの組み合わせを設定しています。

3. 快適性・安全性

上質感のある室内では、インストルメントパネルの中央にスマートフォン連携ディスプレイオーディオ（SDA）を配置しました。7インチと9.3インチ^{*1}のディスプレイから、走行モードやエンジンの出力特性、ステアリングフィール、車内環境などを個別設定できる「マルチセンス」システムを操作可能。走行モードは「マイセンス」「スポーツ」「エコ」の3つから選択することができます。さらに、BOSEプレミアムサウンドシステム^{*1}によって、ドライブ中も臨場感のあるオーディオ体験を楽しむことが可能です。また、先進安全装備^{*2}を充実させたことにより、ドライバーの運転をサポートするとともに、安全・安心なドライブを提供します。

*1：グレード別装備

*2：新型『コルト』に含まれる先進安全装備は下記の通りです。

- レーダークルーズコントロールシステム [ACC]（全車速追従機能付）
Adaptive Cruise Control with Stop & Go
- 車線逸脱防止支援機能 [LDP] Lane Departure Prevention
- 駐車支援システム Easy Park Assist
- 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] Forward Collision Mitigation system
- 車線逸脱警報システム [LDW] Lane Departure Warning
- オートマチックハイビーム [AHB] Automatic High Beam
- 標識認識システム [TSR] Traffic Sign Recognition
- 後側方車両検知警報システム [BSW] Blind Spot Warning
- 後退時交差車両検知警報システム [RCTA] Rear Cross Traffic Alert

【ご参考】

『コルト』は三菱自動車が開発した乗用車で初めて採用したペットネームで、1962年に『コルト』の名を冠した最初の車『コルト 600』が登場しました。1967年の『コルト 1000F』による国際ラリーへの初参戦以降、三菱自動車はモータースポーツへの挑戦を続け、今日のクルマづくりに繋がる礎となっています。数世代にわたって国内外で多くのお客様にご愛用いただき、欧州においては1978年から2014年にかけて120万台以上を販売しました。

以上